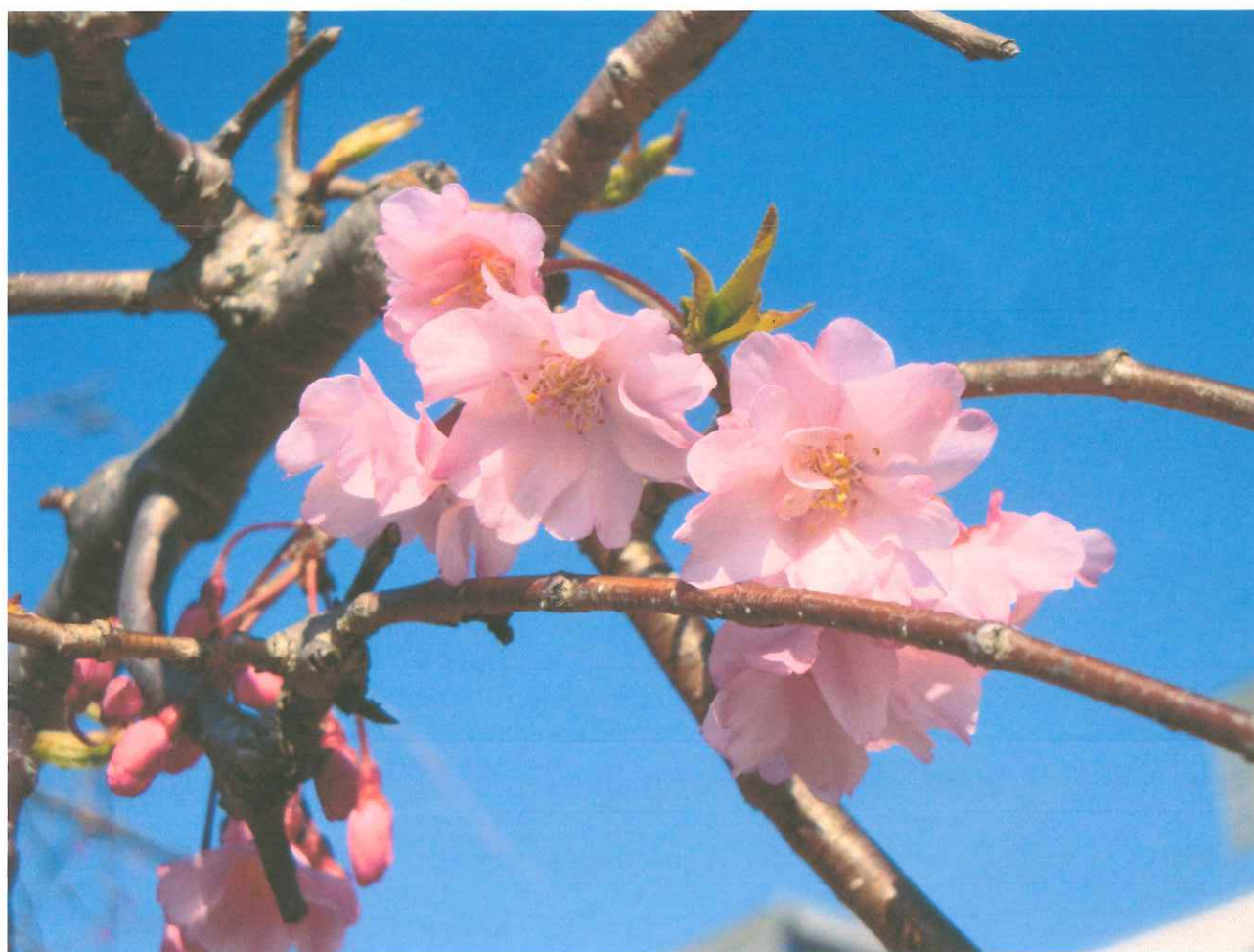


令和3年度

日立市教育研究会

生活科・総合的な学習の時間研究部実践事例集



日立市教育研究会 生活科・総合的な学習の時間研究部

実践事例集の発行にあたって

情報化やグローバル化の進展，人工知能の飛躍的な進化，地域社会や家庭の変容など，将来予測困難な時代を生きる子どもたちは，多様な人々と協働しながらさまざまな社会の変化を乗り越え，持続可能な社会の創り手となることが求められています。そのためには「具体的な活動や体験を通して，身近な生活に関わる見方・考え方を生かし，自立し生活を豊かにしていく」「探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていく」といった生活科・総合的な学習の時間で育む資質・能力がとても重要です。

また，今回の改訂で示された「主体的・対話的で深い学び」は，子ども主体の能動的な学習活動をより一層充実することであり，令和３年度の答申で示された「個別最適な学びと協働的な学び」では，一人一人に応じた学習活動を充実するとともに，ともに学ぶことでより個人の学びの質を高め，同時に集団の質も高めていく学習活動を展開することが求められています。これは，今まで生活科や総合的な学習の時間で重視してきた学習活動が，他教科に広がったと言えます。

今年度は「第３０回全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会」において，金沢小学校の五島美紀先生が「探究的な学習」をテーマに実践を発表されました。日立市から全国への発信ができたことは，本研究部にとりましてたいへんすばらしいことであったと思います。

さらに，県北ブロック研究協議会では，東京未来大学の鈴木亮太先生から「主体的な学びが実現する総合的な学習の時間の授業づくり」をテーマに対面でお話を伺うことができました。生活科や総合的な学習の時間は，専門の教科としての免許状がないこともあり，毎年各学校で部員がかわることも珍しくありません。若い先生方も多く，改めて研修の機会を確保することの必要性を痛感いたしました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大，それに伴う子どもたちへの感染対策の徹底を継続する中，今年度は中学校でも新学習指導要領が全面実施となりました。人と人との交流や本物に触れる体験を大切にしてきた生活科や総合的な学習の時間においては，さまざまな制約がある中，「できない」とあきらめるのではなく，「できること」を見つけたり「できるように」工夫したりしながら教育活動を進める先生方の努力やご苦労があったと思います。

最後になりましたが，「令和３年度 生活科・総合的な学習の時間研究部実践事例集」が，南部地区の先生方のご協力のもと発行できますことに，深く感謝申し上げます。この実践事例集が，各校のさらなる充実した授業づくりにご活用いただければ幸いです。

令和４年２月

日立市教育研究会生活科・総合的な学習の時間研究部
部長 助川 浩美

日立市教育研究会

生活科・総合的な学習の時間研究部実践事例集 目次

【小学校】

1	日立市立河原子小学校	1
2	日立市立水木小学校	3
3	日立市立大みか小学校	5
4	日立市立大沼小学校	7
5	日立市立金沢小学校	9
6	日立市立久慈小学校	11
7	日立市立坂本小学校	13
8	日立市立東小沢小学校	15

【中学校】

1	日立市立河原子中学校	17
2	日立市立泉丘中学校	19
3	日立市立台原中学校	21
4	日立市立久慈中学校	23
5	日立市立坂本中学校	25

活動や体験を通して、気づきの質や表現力を高めるための生活科の授業の工夫

日立市立河原子小学校

1 はじめに

河原子小学校では、生活科の授業において、体験的な活動を行っている。1年生は、昔遊び会や学区探検、季節の特色を活用した遊び等を実施している。2年生では、町探検や野菜の栽培活動、おもちゃ作り等を実施している。

授業では、体験や実践したことを、文章や絵で表現し、活動の振り返りを行っている。そして教室に掲示したり、グループの中で発表をしたりと、友だちの意見を知るようにし、伝え合う場を設定している。

本単元では、2年生の野菜の栽培活動を通して、野菜の育て方等の疑問や質問を友達と共有して、身近な大人に聞く活動を実施した。また、聞いて分かったことや体験したこと、感じたことを表現する場を設けた。

2 資料 第2学年：生活科「ぐんぐん育てわたしの野菜」の実践

(1) 単元のねらい

- ① 植物を継続的に栽培する活動を通して、植物が生命をもつことや成長することに気付いている。
(知識・技能)
- ② 植物を継続的に栽培する活動を通して、植物の変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。
(思考・判断・表現)
- ③ 植物を継続的に栽培する活動を通して、生き物に親しみをもち、大切にしようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 指導計画（10時間扱い）

- | | | |
|-----|----------------|-------------|
| 第1次 | 野さいをそだてよう | 2時間 |
| 第2次 | 野さいのせわをしよう | 3時間 |
| 第3次 | 野さいのようすをつたえ合おう | 2時間（本時1時間目） |
| 第4次 | 野さいをしゅうかくしよう | 3時間 |

(3) 展開

●：配慮を要する児童への支援 (評)：評価

学習内容・活動	指導上の留意点、評価
1 野菜の成長を報告する会での活動を振り返る。 ・自分の野菜にも試せそうなおことがあったよ。 友だちから聞いたことから、じぶんの野さいにも、できそうなことを考えよう。	・前時の活動を取り上げることで、見通しをもつて学習することができるようにする。 ・野菜の様子を確認できるように、タブレットPCを用意し画像でいつでも確認できるようにしておく。
2 本時の活動の手順を確認する。 (1) 友達から聞いた「活動メモ」から、自分の野菜に生かせることを考える。 (2) 同じ野菜を育てている友達と、野菜の育て方について話し合う。 (3) 育て方について、グループごとにまとめ、発表をする。	・話し合いでは、相手の話を受け止めた上で、自分の経験や考えなどを伝えたり、尋ねたりするように、助言する。 ・話し合いを通して、野菜の変化や成長の様子、野菜の種類の違いによる世話の違いについて、気付いている児童の発言を取り上げる。
3 今後の自分の野菜の育て方についてまとめる。 ・友達の発表を聞いて、実際に試してみたいことを、記録カードに記入する	●野菜の育て方について、困っている児童には、自分たちで作った掲示物やタブレットPCを見返すなどして、生育の状況などを確認するように促し、自分たちで問題解決を図

△△くんから、教えてもらったように、鳥がトマトを食べないように、キラキラテープを付けようと思いました。



□□さんから、教えてもらったように、茎が折れないように、支柱を網目のようにして、柔らかい紐で結ぼうと思いました。



4 本時の学習を振り返る。

- ・これまでの活動を振り返り、今後の植物への世話の方法を確かめ、継続して植物の世話をすることへの意欲をもたせる。

れるようにする。

- ・野菜の育て方について、教えてもらった名人とのつながりについても気付くことができるようにする。

- ・活動中のつぶやきや、単位時間の終末の振り返りの発言を取り上げ、称賛する。

(評) 友達と自分の世話の仕方を比べながら、育てている植物に適した世話の仕方を考え、実践したいことを表現することができたか。

(思) 【グループ活動、ワークシート】

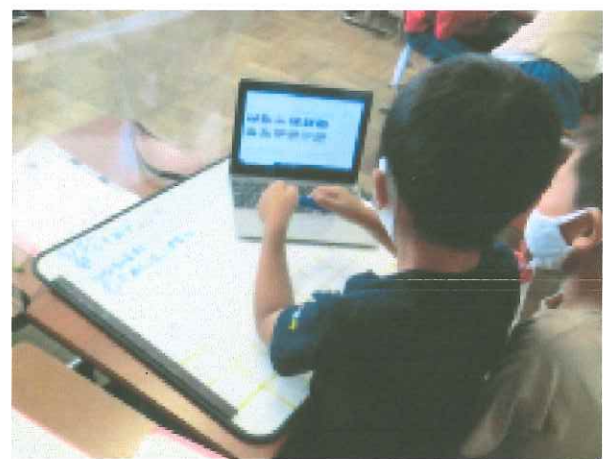
【目標を達成した児童の姿】

- ・異なる野菜の育て方を知り、自分の野菜の世話に適した方法を記録カードに記入できている。

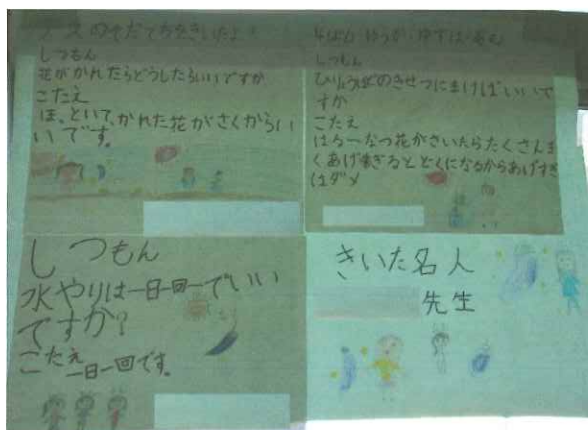
(4) 活動の様子



野菜の育て方についての発表



画像で野菜の生育状況を確認



作成した発表資料



ホワイトボードを活用した分かったことのまとめ

3 成果と課題

- (1) 友達と自分の世話の仕方を比べて、育てている野菜に適した世話の仕方を決めることができた。また、友達の意見を聞くことで、異なる野菜でも同じような性質や特性があることに気付いた。
- (2) 児童の中には、野菜の実に注目し、根や葉等の様子に目を向けることが難しい児童が見られた。植物全体の変容の様子に気付くように、授業を工夫改善する必要がある。

伝え合い交流する活動

日立市立水木小学校

1 はじめに

本校では、目指す児童像として、「ともに学び合い、考えを深める子」を掲げている。また、目標達成のための施策として、「学び合い、話し合い活動の充実」する学習活動を重視している。生活科において、児童同士が伝え合う場を設定することで、互いに関わる意欲や気付きを高めることができると考え、実践を行った。

2 指導案

(1) 単 元 うごくうごく わたしのおもちゃ

(2) 目 標

- ① 身近にある物を使い、動くおもちゃをつくる活動を通して、遊びやおもちゃをつくる面白さや、自然の不思議さに気付くことができる。 (知識及び技能)
- ② 身近にある物を使い、動くおもちゃをつくる活動を通して、よりよく動くように改良したり、もっと楽しくなるように遊び方やルールを変えたりするなど、工夫しておもちゃや遊びをつくることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- ③ 身近にある物を使い、動くおもちゃをつくる活動を通して、みんなで楽しみながら遊びを創り出そうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

(3) 指導にあたって

本単元は、学習指導要領生活科の内容(6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動」を中心に、(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動」を行うこととも関連させながら設定したものである。

本学級の児童は、1年生の生活科で、どんぐりやまつぼっくりを使って、こまやけん玉などのおもちゃをつくった経験がある。また、図画工作科での工作などの製作活動が好きな児童が多い。

そこで、単元の導入では、教師がつくった身近な物でできたおもちゃで遊ぶ活動を通して、興味・関心をもてるような出会いを大切に、「面白そう。」「〇〇をつくってみたい。」という思いや願いをもたせる。動くおもちゃをつくって遊ぶ活動では、動く仕組みに目が向くようにしながら、工夫次第で動きがよくなる面白さを実感できるようにするために、つくりながら試して遊ぶ場を設定する。また、それらの活動を行う中で積極的に友達と情報交換したり、思考したりすることを通して、表現する力も身に付けていく。

(5) 本時の指導

① 目 標

どうしたらおもちゃの機能を高められるか考えて、友達と教え合ったり、比べたり試したりしながら改良することができる。 (思考・判断・表現)

② 準備・資料

おもちゃ、材料、ワークシート

(6) 展開

☆思考力・判断力・表現力を高める支援

(評)記録に残す評価

学 習 内 容 ・ 活 動	指 導 上 の 留 意 点 , 評 価
1 本時の活動内容を確認する。 おもちゃのうごきをパワーアップさせよう。 2 パワーアップさせるために必要なことを各グループで話し合い改良する。 3 パワーアップしたおもちゃについて発表する。 4 本時の学習を振り返る。 ・ もっと遠くまで転がるように形を変えてみたい。 ・ ゴムの数を増やしたらジャンプ力が上がった。	・ 課題や本時の活動の流れを掲示することで、活動の見通しをもたせる。 ・ 「もっとうまく動く工夫を考える」という学習めあてを確認し、児童の意欲を高める。 ☆おもちゃの動きの違いに気付くことができるように、お互いのおもちゃの共通点や相違点に目を向け、「もっと動くようにするには」という視点で考えるように助言する。 ・ 動きの変化に注目して改良できた点を全体の場で価値付ける。 (評) 友達のおもちゃと比べたり競争したりしながら、おもちゃの動きを予想し、おもちゃを改良することができたか。(思考・判断・表現(発表・ワークシート)) 【目標を達成した児童の姿】 ・ おもちゃについてよくなったところに気付いている。 ・ 友達と楽しみながらおもちゃで試し、改良したいところを考えている。

3 成果と課題

単元の導入で、様々なおもちゃで遊んだことで、興味関心を高めることができ、どの児童も熱心に製作に取り組んだ。おもちゃづくりは、児童にとって意欲的に活動できる題材であった。つくりながら試す時間を設けたことで、もっとよく動かすにはどうしたらよいか考えるきっかけとなった。また友達と競争して遊ぶことで、動きの違いに目を向けることができた。このように、学習活動の工夫により、児童に効果的に課題を提示し、自ら課題解決していくことができた。また、同じおもちゃを作る児童でグループになることで、自然と話し合って活動する姿が見られた。「重くしたらスピードが出るかもしれないよ。」「風の当たる場所を大きくしてみよう。」と考えたことを自分の言葉で具体的に表現し、伝えようとしていた。例年、1年生を招待しての「おもちゃランド」を開いていたが、感染症対策から今年度は学年内の交流を行った。遊んでもらう相手意識が明確になることで、活動意識を高めることができた。

どこを改良したらよいか、考える力には個人差が見られた。自然の不思議さに目を向けたり、科学的な見方をしたりできるよう普段の生活においても意識させたい。

様々な材料をそろえるために、早めに計画準備をし、保護者への協力も呼びかけたい。

気付きの質を高め、自立の基礎を養うための指導の工夫について
—具体的な活動や体験を通して—

日立市立大みか小学校

1 はじめに

本校の生活科の学習では、「人、もの、社会、自然に積極的に関わっていける力・生活していく上で必要な習慣や技能を身に付ける」ことを目標としている。具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立して生活を豊かにしていける児童が育つように指導をしてきた。

今回は、1年生の「あさがおのつるでリースをつくろう」と、2年生の「もっと知りたいな町のこと」の活動事例について紹介する。児童が地域や自然や施設、人々との関わりの中から、多くの気づきが得られるように実践を行った。

2 実践内容

(1) 第1学年 あさがおのつるでリースを作ろう 全6時間

- ① 朝顔のつるを使って、リース作りを行った。支柱からつるを外し、丸めて形を作った。夏の間に水やりを定期的に行った児童は、十分なつるの量があり、太くて頑丈なリースになった。水やりを怠った児童はつるが枯れてしまい、細いリースになってしまった。

- ② 日立製作所大みか事業所に出向き、敷地内の林で、リースの材料になるどんぐりや松ぼっくり、落ち葉を収集した。大みか事業所の方の協力の下、沢山の材料を集めることができた。



- ③ 朝顔で作ったリースと収集した材料で、飾り付けをした。児童は、大きな松ぼっくりを貼り付けたり、どんぐりをバランス良く並べたりするのに苦労した様子だったが、上手に作ることができていた。



(2) 第2学年 もっと知りたいな 町のこと

- ① 事前に、近隣の事業所に協力依頼をした。各事業所に向かうグループごとに、事業所の方への挨拶の仕方や質問事項を考え、ワークシートにまとめた。事前指導では安全な道路の歩き方等について確認した。町探検当日は、ボランティアの保護者の協力の下、安全に楽しく活動することができた。



- ② 模造紙に、調べてきた内容をグループごとにまとめた。質問に対する答えを書くだけでなく、事業所までの地図を書いたり、三択クイズを作ったりすることで、見る人が興味をもてる資料作りができるようにした。
- ③ 1年生との交流の時間として、調べてきた事業所の仕事について1年生にクイズを出題した。1年生が興味をもって聞けるように、事業所の写真を大きく拡大して見せたり、ペープサートを動かして説明したりするようにした。町探検に行っていない1年生も、楽しんでクイズに答えることができていた。



3 成果と課題

〈成果〉

- (1) 自分で育てた朝顔や拾ってきた材料を使うことで、季節を味わって楽しみながら制作することができた。
- (2) 児童にとって身近である施設を見学したことにより、興味をもって活動に取り組むことができた。
- (3) 他学年との交流の時間をもつことで、相手を意識して発表の練習をすることができた。1年生が喜んでいる様子を見て、2年生は達成感を得られたようだった。

〈課題〉

- (1) 夏休みと新型コロナウイルスの流行による自宅学習期間中に、朝顔を枯らしてしまった児童は、リースが小さくなり、十分な飾り付けができなかった。
- (2) 事業所の見学で、考えていた質問がなかなかできない児童がいた。練習の時間を多く取って、スムーズに質問ができるようにしたい。また、準備していた質問を聞き終わった後に困っている児童がいたので、質問後の行動について考えておくよかった。

身近な地域社会との関わりの中で、自己の生き方を見つめ直す力を育む授業づくり
～ 4 年 福祉体験を通して～

日立市立大沼小学校

1 はじめに

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編の目標には、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。」と記されている。「探究的な学習」とは、物事の本質を探って見極めようとする知的営みのことである。児童が身近な地域社会と直接関わる活動や体験をするとともに、学んだことを自己と結びつけて、自分の成長を自覚したり自己の生き方を考えたりすることができるようにすることが大切である。

今回は、アイマスク体験や高齢者疑似体験、手話体験等の主体的な体験学習を通して、障害があるということはどういうことなのかを知り、障害者の暮らしを理解したり介助の方法を知ったりするとともに、ICT等を活用して調べたり、情報を共有したりすることで学びを深め、自己の生き方を見つめることができるのではないかと考え、実践を進めていった。

2 資料（単元の指導計画（50時間扱い）、写真）

「知、思、態」は指導に生かす評価、「知、思、態」は記録に残す評価

次	時	学習活動	観点	◎評価【評価方法】 ・留意点等 ※は努力を要する児童への手立て
1	1 ～ 2	福祉について考えよう。 ・1年間の学習の見通しをもつ。	態	◎福祉とは何かについて理解しようとしている。【観察】
2	3 ～ 8	身近な福祉について考えよう。 ・課題を見つける。 ・解決の見通しをもつ。	思	◎福祉について調べてみたいことを考えることができる。【観察・ワークシート】
3	9 ～ 14	体験学習をしよう。 ・高齢者疑似体験をする。 ・アイマスク体験をする。	◎思	◎高齢者や視覚障害者に対して自分にできる介助の方法を具体的に考えることができる。【観察・ワークシート】
4	15 ～ 20	体験学習をもとに、福祉についてさらに調べよう。 ・資料やインターネットで調べる。	知	◎体験したことをもとに、さらに知りたいことを調べ、理解を深めることができる。【観察・ワークシート】
5	21 ～ 22	ここまでの学習のまとめをし、自分にできることを考えよう。 ・これまでの学習を振り返る。 ・今後の学習の見通しをもつ。	◎思	◎体験したことや調べたことをもとに自分の考えをまとめ、適切な方法で表現することができる。【観察・ワークシート】
6	23 ～ 26	これまでの学習をもとに、福祉についてさらに調べよう。 ・解決の見通しをもつ。	態	◎これまでの学習を振り返り、さらに調べてみたいことを考えることができる。【観察】

7	27 ～ 28	聴覚障害について調べよう。 ・解決の見通しをもつ。 ・資料やインターネットで調べる。	知	◎聴覚障害についてインターネットを使って調べようとするができる。 【観察・ワークシート】
8	29	調べたことをもとに、聴覚障害に対して、自分にできることを考えよう。 ・調べたことをグループ内で確認する。 ・調べたことについて全体で交流する。 ・聴覚障害者に対して自分にできることを考える。	思	◎調べたことや友達の発表をもとに、自分にできることを考え、まとめている。 【観察・記述分析】
9	30 ～ 34	手話を体験しよう。 ・手話体験をする。 ・振り返りをする。	知 思	◎手話を通して、聴覚障害について理解を深めることができる。 【ワークシート】 ◎手話を使って、簡単な言葉や気持ちを相手に伝えることができる。 【観察】
10	35 ～ 48	体験学習をもとに、福祉についてさらに調べよう。 ・解決の見通しをもつ。 ・資料やインターネットで調べる。	思	◎体験したことや調べたことをもとに自分の考えをまとめ、適切な方法で表現することができる。 【観察・ワークシート】
11	49 ～ 50	福祉についてまとめをして発表しよう。 ・今まで調べてきたことをもとに新聞にまとめる。 ・発表をする。	知 思	◎体験したことや調べたことを通して、福祉についての理解を深めている。 ◎福祉について今まで調べてきたことをもとに適切な方法で表現することができる。 【観察・ワークシート】

〈アイマスク体験の様子〉



階段を上る



廊下を歩く



階段を下りる

3 成果と課題

障害のある人を見かけたり、声をかけて手伝ったりした経験のある児童はほとんどいないが、テレビなどで手話や字幕などを必要とする人のための情報があったり、町の中で音声の流れる信号機や点字ブロックがあることは、すべての児童が知っていた。児童は、ICTや本などで福祉について調べたり、アイマスク体験や高齢者疑似体験をしたり、実際に聴覚障害をもつ方から手話を教わったりすることによって、障害者の日常生活に思いを寄せたり、どのように接したり介助したりしたらいいのかを知ることができた。また、これらの学習を通して、児童は、これから先、障害の有無に関わらず、困っている人を見かけたときに自分はどのように行動したらいいのか考え、友達など身近な人に対する接し方や自分自身の生き方を見つめ直すことができた。

今後の課題としては、体験学習を行う場の設定の見直しである。アイマスク体験で校舎内を歩いたが、校舎内ではなく体育館など広い場所で階段や坂道などをつくって実施することにより、より安全に活動することができるように、検討していきたい。

1 はじめに

総合的な学習の時間では、何のために学ぶのか、どのように学ぶのかということを児童自身が考え、主体的に学ぶ学習を基盤に、異なる多様な他者と協働して主体的に課題を解決しようとする学習活動を重視することが必要である。それは、多様な考え方をもつ他者と適切に関わり合ったり、社会に積極的に参画したり貢献したりする資質・能力の育成につながることで、探究的な学習として、児童の学習の質を高めることにつながるからである。

そこで、探究的な学習に、主体的・協働的に取り組むことのできる授業づくりをすれば、児童同士が互いの資質や能力を認め合い、相互に生かし合う関係や自分の生き方を考えるための資質・能力が育まれるであろうと考え、本主題を設定した。

2 資料

(1) 実践事例

① 単元名「人にやさしく」

② ねらい

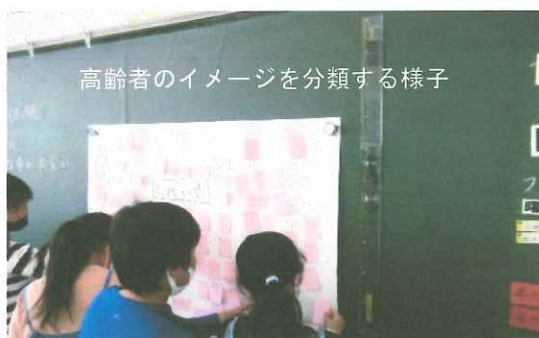
金沢地区の施設・人などに関心をもち、高齢者疑似体験や車いす体験を通して、様々な人の困難さや、それに対応するための工夫を知り、互いに認め合いながら生活しようとする。

③ 活動の様子と考察

ア 高齢者疑似体験

体験を行う前に、「高齢者」という言葉からイメージすることを書かせ、付箋を用いて分類した。可視化することにより、複数の児童で情報の整理、分析を協働して行うことができた。

体験活動はグループで行った。グループで行うことで、他者と情報を共有し、互いの意見を認め合うことができるようにした。



〈児童の振り返りより〉

目が全然見えなかったので、階段の上り下りが怖かった。〇〇さんたちが手を取ってくれてうれしかった。お年寄りがどうしたら住みやすくなるか考えていきたい。

イ グリーンスローモビリティ体験

高齢者疑似体験で、高齢者が抱える問題点を話し合った後、金沢団地内で行われている電気カートと乗り合いタクシーを組み合わせた交通弱者対策の実証実験について話を聞き、カート（グリーンズローモビリティ）の見学を行った。



アとイの活動から、どんな時に高齢者が困りどんな手助けが必要なのかに気付くことができたので、グリーンズローモビリティが生まれる背景や便利さを実感できた。

ウ 社会とつながる

〈児童の発表より〉

グリーンズローモビリティのことをもっとみんなに知ってもらって、実際に団地の中を走ってもらえるようになると思いました。知らない人だから助けなくてもいいではなく、進んで手助けをしようと思いました。自分からあいさつをしたり、話しかけたりして、地域のお年寄りとうまく仲良くなろうと思いました。

3 成果と課題

(1) 成果

実践後のアンケートの結果や振り返りから、高齢者の日常生活の大変さに気づき、祖父母や地域の高齢者と積極的に関わっていこうという社会の一員としての、意識の高まりが見て取れた。また、体験活動を重視したので課題を「自分のこと」としてとらえ主体的に取り組むことができた。

情報交換や発表する場を多く設けたことで、お互いの考えを認め合ったり、一人では気付かなかった問題に気付いたりすることができた。また、地域の人とかかわったり友達と一緒に学習したりすることで、相手意識や仲間意識をもつことにつながった。

(2) 課題

コロナ禍の中での実践であったため、地域の高齢者の方々と十分に交流することができなかった。児童は、高齢者の方々に対して自分たちに何ができるかを考え、計画することができたので、今後機会を見つけて実践したい。学んだことが生かされ、学校と社会をつなぐことができるような総合的な学習の時間となるようにしていくことが、今後の課題である。

探究的な見方・考え方を働かせ、地域に関わる体験的な学習を通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えることができる子どもの育成を目指した授業づくり

日立市立久慈小学校

1 はじめに

本校では、「自分を見つめ 自分と対話し 目標に向かって挑戦し続ける 久慈っ子の育成」を教育目標に掲げ、地域の特性を生かした教育活動の充実・展開を図っている。その中で、総合的な学習の時間では、自分との関わりを意識して、地域を見たり接したりする活動から気付きや疑問を引き出し、児童の興味・関心を大切に調べ学習を進める中で、身近な社会の素晴らしさを知ったり、もっとこうしたいと思ったりすることで、自らの生活を豊かにしていこうとする人間の資質や能力を育成することを目指している。

ここでは、3年生の「わたしたちのまち 発見！」という単元の2学期までの学習を紹介する。生活科の学習から発展してきた児童の思いを、探検や校外学習からイメージマップなどを通して自分の課題を設定できるようにし、調べ学習やまとめの活動の中で温めていった。

2 資料

(1) 単元の目標

- 自分たちが住んでいる地域について関心をもち、進んで調べることができる。
(学びに向かう力、人間性等)
- 友達と協力して資料や情報を収集し、課題を多面的に考え、調べることができる。
(思考力・判断力、表現力等)
- 調べてわかったことを情報交換したり、工夫して表現できる。
(思考力・判断力、表現力等)
- まとめた内容を通して、地域のために自分たちができることを考え、実践できる。
(学びに向かう力、人間性等)
- 自分たちが住んでいる地域の昔の様子や、地域の良い所がわかる。(知識及び技能)

(2) 単元計画

① 1学期

主な学習活動	主な評価規準と評価の方法
1 久慈町のよいところや知っているところについて話し合い、見学コースを決め、コースに分かれて地区探検をし、調べたいことを考える。	・自分たちが住んでいる地域についての興味が深まり、これからの活動に対する意欲が高まった。 ㊦ (関・意・態) [行動観察・絵地図]
2 海コースと山コースで調べたい課題ごとに分かれて調べ学習をしたり、情報交換をし、まとめる内容を決めて資料作りをする。	・学習テーマを決め、課題解決の見通しをもつことができる。 ㊦ (設定) [ワークシート] ・見たり聞いたりして情報を集め、分かりやすくまとめることができる。 ㊦ (解決) [ワークシート]

3 課題ごとのグループに分かれて、学年で発表会をし、まとめの感想をもつ。	・ 久慈地区の長所・短所に気付き、これからの生活に生かすことができる。 ㊦（自己の生き方）[振り返りシート]
--------------------------------------	---

② 2 学期

主な学習活動	主な評価規準と評価の方法
1 校外学習で、日立市をバスで見学し、かみね公園展望台から日立市の全体的な様子を観察する。	・ 課題を多面的に考え、調べることができる。 ㊦（解決）[ワークシート]
2 自分で調べてみたい施設を決めて、グループに分かれて調べ学習をしたり情報交換をしたりする。	・ 友だちと協力して、情報を収集・活用し、分かりやすくまとめることができる。 ㊦（コミュニケーション）[観察・掲示物]
3 施設ごとのグループで内容をまとめる分担を決め、資料作りと発表原稿作りをし、発表の準備をする。	・ グループの活動や発表会で自己の成長に気付き、新たな目標を見つけることができる。 ㊦（自己の生き方）[振り返りシート]
4 グループごとに発表をして、まとめの感想をもつ。	

(3) 資料



①学区探検で使用した地図

3年 総合的な学習の時間「かがやき」②
「わたしたちのまち 発見」
(名前)

1. どの地域について調べますか？
あたごね社

2. その地域についてどんなことを調べたいですか？
どうして？人、仕事、いじ

3. どんな資料で調べたいですか？ローマ字で調べたいですか？
本紙で書いてみる、ローマ字でも書いてみる

ネ申ネ あたごね社
atagoneja

4. パソコンを使えば、簡単に調べられます。新しいことばかりです。
何を調べたいかを考えよう。

何を調べたいかを考えよう。
何を調べたいかを考えよう。
何を調べたいかを考えよう。
何を調べたいかを考えよう。
何を調べたいかを考えよう。
何を調べたいかを考えよう。
何を調べたいかを考えよう。
何を調べたいかを考えよう。
何を調べたいかを考えよう。
何を調べたいかを考えよう。

②地域調べのワークシート



③児童が作った発表資料

3 成果と課題

1 学期に予定していた「生き生きサロン」など、地域のお年寄りの方々との中間発表会とインタビュー体験がコロナ禍のために実施できないことが残念だった。密になる活動を避けるために、1 学期の調べ学習のまとめは、一人1枚の画用紙の表に絵や言葉などのプレゼンテーション資料を描き、裏にスピーチの原稿を書くという形式で実施した。

2 学期の日立市内を調べる学習では、何を調べたら良いかについて、児童と話し合っ、どのグループでも有効な融通のきく項目を考えることにより、短い時間で児童の個性も生きる発表資料ができた。児童がじっくりと友達と意見交換するような活動はあまりできなかったが、総合的な学習の時間の目的や意義を理解し、自分の分担を完成させて協力して発表するという責任を学び、地域の素晴らしさに触れることができた。一方、自分の思いを深められるような活動や言葉かけについてはさらに研究が必要であると感じた。

自分の考えをもち、学び合うことのできる生活科の授業づくり
ー自然に親しみながら、考えたことを伝え合う活動を通してー

日立市立坂本小学校

1 はじめに

本校の1年生は疑問に思うことや驚いたことなど、様々な発見をしては教師に知らせてくれる。生活科における体験活動にも意欲的に取り組んでいる。しかし、言葉や絵で表現することに苦手意識がある児童は少なくない。また、虫を観察したり、捕獲したりすることに抵抗を示す児童もいる。そこで、本単元では、導入として、学校の虫マップを作る活動を取り入れることで意欲をもたせたい。さらに、虫と触れ合う楽しさを味わう中で、動き方や体の特徴等の気付きを大切に、身体表現や絵、文章で表せるよう助言をし、伝え合う活動を多く設けた。さらに、飼育活動を通して、分からないことを解決し、交流する楽しさを味わうことができるように、疑問や分かったことをカードに書いたり、友達と相談したり家の人に尋ねたりする活動を取り入れた。自分の考えを整理したり、友達の考えと比較したりすることで、自分の考えを深めることができるようにする。

2 資料

(1) 単元 いきものとなかよし

(2) 目標

- ① 身近な動物を探したり飼ったりする活動を通して、身近な動物は生命をもっていることや成長していることに気付くことができる。(知識及び技能)
- ② 身近な動物を探したり飼ったりする活動を通して、身近な動物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ③ 身近な動物を探したり飼ったりする活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。(学びに向かう力、人間性等)

(3) 単元について

本単元は、学習指導要領の(7)「動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。」を受けて設定したものである。ここでは、身近な動物を探したり飼ったりする活動を通して、それらの育つ場所や変化の様子に関心をもって働きかけることができる単元である。

(4) 本時の目標

① 目標

虫マップを整理し、虫が育つ場所の特徴について伝え合うことができる。
(思考力、判断力、表現力等)

② 準備・資料

- ア 虫の写真(コオロギ、カマキリ、アリ、キリギリス、バッタ、アキアカネ)
- イ 校庭の地図
- ウ 色シール
- エ 校庭の地図(グループ)
- オ ワークシート

(3) 展 開

○個に応じた手立て (評) 評価方法

児童の活動	教師の働きかけ
1 前時の振り返りをする。 2 本時の学習課題をつかむ。 むしマップをつくり、むしのすみかのひみつをかんがえよう。 3 グループで交流し、虫マップを作る。 (1) 常時活動で行ったワークシートをもとに、どこにどんな虫がいたか話し合う。 (2) 校庭の地図に虫シールを貼る。  4 全体で交流し、虫マップを見て気付いたことを発表する。 (1) グループごとに、どこにどんな虫がいたのか発表する。 (2) それぞれの虫マップを見て、同じところとちがうところを仲間分けする。 (3) 気付いたことを発表する。 【予想される児童の反応】 ・バッタは草の多いところにいるよ。 ・草と体の色が似ているからバッタは草にいるのかな。 ・校庭の真ん中には虫がいないね。 ㊦ むしによってすみかがちがう。えさがあるところやかくれやすいところにいる。 5 本時の学習を振り返る。 飼育したい虫を考え、どんな場所に探しにいかワークシートに書く。 6 次時への見通しをもつ。	・前時までの活動を思い出せるように、虫の写真を提示する。 ・校庭の地図を掲示し、児童の学習意欲を高める。 ・どの虫がどこにいたかを視覚的に捉えやすくするため、虫別にシールの色を決める。 ・「芝生広場の草と草の間にいた。」など、詳しく説明し、気付きの質を高める。 ○常時活動で使用したワークシートを見ながら、「△△に□□がいました。」と伝えるよう声をかける。 〔評〕 虫マップを整理し、虫が育つ場所の特徴について伝え合うことができる。 (発言) ・虫や校庭、花壇、芝生の写真を見せ、その場をイメージしやすくする。 【児童のつまずきへの手立て】 ・虫によってすみかが違うことに気付かない場合は、虫がいない場所に注目させ、なぜいないのか理由を考えるよう声かけし、虫によってすみかが違うことに気付かせる。 【できる児童への手立て】 ・なぜ虫によってすみかがちがうか理由を考えるよう声をかける。 ・文章が書けるように、書き方のモデルを提示する。 ○探しに行く場所が分からない児童には、黒板に掲示してある虫マップを参考にするよう声をかける。 ・虫かごに入ったバッタを見せ、次時では、虫を捕まえに行くことを伝える。

3 成果と課題

グループで虫マップを作る活動において、自分のワークシートをもとに友達と交流したことで、自分の考えを伝える姿が見られた。場所だけでなく、動き方や大きさを伝える児童もいたことから、考えが広がったといえる。言葉で伝えることが苦手な児童は、シールを貼る活動において、発見した虫と場所を表現することができた。虫マップを見て全体で交流する活動においてはグループで考えをワークシートにまとめたことで、自信をもって発言する児童が多かったことから、自分の考えをもち、伝え合うことができたといえる。

一方で、虫がなぜその場所にいるのかという疑問を抱かせることが課題である。今後は、3学年の理科にもつながる学習でもあるため、「なぜ生き物によってすみかがちがうのか」というような疑問が芽生えるような活動を行っていきたい。

1 はじめに

近年、児童数の減少が顕著となっており、児童の実態に合わせた指導ができる反面、学び合いによって自分と異なる考えに触れたり、自分の考えを深化・統合したりすることが難しくなっている。そこで、総合的な学習の時間のねらいを達成するために次のような取り組みを行っている。

2 資料

(1) 総合的な学習の時間のねらい

- ・自ら課題を見つけ、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決できる資質や能力を育む。
- ・学び方やものの考え方を身に付け、問題解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

(2) 少人数学級における授業の工夫

① 異学年合同授業の実施

中学年（3・4年）、高学年（5・6年）の異学年合同授業を行い、多様な考えに少しでも触れられるようにしている。カリキュラムは、A・B年度の2年間で計画し、取り組んでいる。具体的には、3・4年は、A年度「環境」、B年度「福祉」、5・6年は、A年度「キャリア」、B年度「食育」を設定し、隔年で2つの単元を交互に学習するようにしている。

② 体験的活動の積極的な設定

授業で課題を設定したり、調べたりする過程において、文章を読んだり説明を受けたりするだけでは、児童にとっては内容の理解が難しい場面がある。社会事象等について児童が実感したり共感したりすることで新たな疑問や、追求したい課題も見えてくると考える。そこで、学習においては、少人数学級の利点である機動性をいかし、体験的活動を積極的に取り入れている。ここでいう体験的活動とは、児童の実体験ばかりではなく、模擬的活動、動画や師範を見ることなども含めている。

③ 地域行事への積極的な参加

小規模校であるため、教育活動の多くを地域によって支えられている。したがって地域の行事には、全校児童が積極的に参加し、多くの体験ができるようにしている。

(3) 授業の実際

① 実践事例1 「久慈川水系 里川の水質調査」

(ア)ねらい ・河川の水質に興味・関心をもって、調査を通して郷里の河川への理解を深め、河川を大切にしていこうとする愛護精神の態度育成を図る。

(イ)講 師 国土交通省関東地方整備局 常陸河川国道事務所

(ウ)内 容 ア 川の様子を調べる。

イ 簡易水質調査

「パックテスト・酸性・アルカリ性を調べるテスト
透視度計を使った川の透視度計測」

ウ 水生生物調査



▲ 水生生物調査



▲ 透視度計測



▲ パックテスト

② 実践事例2 「久慈川エコネットワーク推進事業（保全・種まき）への参加」

(ア)ねらい ・ 久慈川河川敷地に菜の花を栽培する活動へのかかわりを通して、河川敷地の環境整備に貢献するとともに郷土に対する誇りや愛情を育む。

(イ)参加者 東小沢小学校全児童及び保護者、日立市生活環境部職員
久慈川エコネットワーク推進委員会委員、地域の方



▲ 石拾いの様子 ▲



▲ 菜の花の種をまく様子 ▲

③ 実践事例3 「キッズミッション」

(ア)ねらい ・ 身近な環境問題(ゴミ・水・電気)について、具体的な体験活動や実験などを通して考え、これから自分たちでできることを実践していこうとする態度を育てる。

(イ)講 師 茨城県環境アドバイザー

(ウ)内 容 「身近な環境問題についてSDGsの観点で考えよう」

- ・ LED電球と電球の二酸化炭素の排出量・電気代等を比較する実験
- ・ 水や洗剤を使いすぎない食器洗い体験
- ・ エコ工作(毛糸でポンポンタワシ)



▲ 毛糸でポンポンタワシ作り

▲ 水や洗剤を使い過ぎない食器洗い体験

▲ LED電球と電球の比較実験

3 成果と課題

(1) 成果

- ・ 身近な環境問題について、外部の専門の方々のお話をいただいたり、地域の方々とかかわったりしたことで、興味・関心が一段と高まり、主体的・意欲的に活動できた。
- ・ 環境問題を通して地域との連携の大切さを確認できた。また、児童一人一人の多様な発想や意見等が生かされ、考えを広げ深められるような学びの機会となった。

(2) 課題

- ・ 小規模校における総合的な学習の時間の進め方等について、継続して検討していく。
- ・ 児童の主体的・対話的で深い学びが実現できるよう指導の改善・充実に日々努めていく。

自分のよさや可能性に気づき、学んだことを自分の生き方に生かす生徒の育成
～河中エイサーの取組を通して～

日立市立河原子中学校

1 はじめに

エイサーは、沖縄県と鹿児島県奄美群島において、お盆の時期に現世に戻ってくる祖先の霊を送迎するため、若者たちが歌と囃子に合わせ踊りながら地区の道を練り歩く伝統芸能である。また、かつては祝儀を集めて集落や青年会の活動資金とする機能も重視され、その金でため池を設けた例もある。地域によってはヤイサー、エンサー、七月舞（しちぐわちもーい）、念仏廻り（にんぶちまーい）とも呼ばれる。

河原子中学校では、平成13年度から、この踊りを「河中エイサー」として取り組んできた。郷土の歴史や文化を学び、郷土愛を育て、生きる実感体験として、毎年1年生から3年生までが総合的な学習の時間に学習している。

2 資料（実践事例、写真等）

(1) 河中エイサーについて

① 役割

大太鼓	締太鼓	手踊り
直径およそ50cmの太鼓を持ち、歌に合わせてバチで太鼓を叩きながら踊る。	直径およそ30cmの太鼓をバチで叩きながら踊る。ほとんどの生徒がこの役を担う。	女子数人で構成される。道具は使わずに踊る。

② 衣装

ア 太鼓打：サージ、襦袢、打掛、脚絆

イ 手踊り：鉢巻き、クンジー

(2) 河中エイサーの取組

① 各学年の取組

各学年で段階に応じた学習を進めている。1学年では「河中エイサー」について調べ学習等を行うことで、河原子中学校の伝統を継承し、河中生としての誇りを培う意識を高めている。2学年では、3学年から「河中エイサー」を教わったり、民族歌舞団「荒馬座」の指導を受けたりしながら技術を高め、ひたち秋祭りの披露に向けて取り組んでいる。3学年では、主に夏休み中に行われる地域の行事等で、「河中エイサー」の披露の機会がある。

② 今年度の取組

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、「荒馬座」による指導はリモートでの練習会となった。また、ひたち秋祭りや地域の祭りなどは全て中止となったため、校内でエイサーを撮影して「ケーブルテレビJWAY」で放映するなど、縮小しての活動となった。



2・3学年合同練習会



荒馬座のリモート指導



JWAY撮影

【河中エイサー年間計画】

時期		主な活動	育つ意識
1 学 年	1学期		・ 沖縄やエイサーを知る ・ エイサーへの意欲向上
	2学期	・ 体育祭でエイサーを知る（9月）	地域を知る
	3学期	・ エイサーの歴史を学ぶ	沖縄・河中の伝統を知る
2 学 年	1学期	・ 3年生から引き継ぎ（1学期） ・ エイサーの練習（1学期）	「荒馬座」による指導 ・ 踊りを喜んでももらえる達成感・有用感・自己肯定感 ・ 仲間と踊りきる達成感 ・ 多くの観客の前でやり切る達成感・自己存在感
	2学期	・ 体育祭で披露（9月） ・ 敬老会で披露（9月） ・ ひたち秋祭りで披露（10月）	
	3学期		
3 学 年	1学期	・ 2年生に引き継ぎ（1学期） ・ エイサーの練習（1学期）	・ 2年生に伝える活動の中で伝統をつなぐ役割を担う自己有用感・存在感 ・ 発表を通じての達成感 ・ 地域での有用感・存在感 ・ 地域を担う人材としての意識
	2学期	・ 塙山さんさん祭りで披露（7月） ・ ひたち秋祭りパレード参加（10月）	
	3学期		

3 成果と課題

- 一生懸命練習に取り組み、様々な舞台で発表することによって、達成感や成就感を得ることができる。
- 祭りに出演することが地域への貢献につながり、地域の方々との交流によって地域への所属感を味わうことができる。
- 不登校傾向の生徒の中には、エイサーの活動のために登校する生徒もいるなど、本校にとって重要な取組となっている。
- △ 発表する機会が同時期に集中することから、生徒や教員の負担が大きい。
- △ コロナウィルス感染症の流行によって、活動が大きく制限された。次年度への継承が難しくなっている。

1 はじめに

本校には、1 学年 190 名、2 学年 150 名、3 学年 189 名の計 529 名の生徒が在籍している。総合的な学習の時間を「いずみタイム」と称し、「自分自身が社会の一員であることを自覚し、自己の生き方についてよりよい判断をして行動することのできる力を育てる」「主体的に学習を進め、多くの人々と触れ合い、心を通わせていくことを通して、豊かな感性を育む」「身近な社会課題と SDGs の関連性に気付き、自ら課題を設定し、解決に向けて考える力を育てる」という学校目標に合わせて、各学年でテーマと目標を設定し、活動に取り組んでいる。

今回の実践報告は、「自分の地域の魅力発見」というテーマのもとで活動した第 1 学年の内容である。日立市や茨城県内の名所について調べ、そこで働いている人々の職業まで視野を広げて調査し、将来自分はどんな仕事に携わりたいかまで考えさせる指導内容である。その中で、「市内の良いところ探し」と称して、日立市観光物産協会と協力して 7 月に実施した「日立市内の観光についての訪問授業」についてまとめた。本来は、「日立市にある魅力」を探す活動を行う予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大を懸念し、校外での活動を控えようと考えたことで、日立さくらメイツの方に日立市の PR をしていただき、日立市の魅力の再発見につなげていった。

2 資料（実践事例、写真等）

(1) 単元名「市内のよいところ発見」

(2) 実践事例

ア 研究課題

日立市の新たな魅力の発見

イ ねらい

日立市の新たな観光の魅力に関心をもち、訪問授業や調べ学習を通して、市が取り組んでいることや、そこに携わる人々の働きと職業について理解を深め、将来自分がやりたいことについて考えることができる。

(3) 活動の様子と考察

ア 訪問授業

はじめに「日立市にはどんな魅力があるか」について質問し、出てきた答えを確認しながら、他にはどのような魅力や観光スポットがあるかについての話をした。紹介されたものと自分が知っていたものを確認することで、それまで知らなかった新たな魅力に気付き、日立市の魅力を再発見することができた。生徒たちは話を聞くなかで、日立市には、日本で 100 カ所しか選ばれない海水浴場のうち 3 つが日立市に存在していることや、中里地区では果物が頻繁に栽培されていることなどに興味を示していた。また、学校からの要望で、日立市が取り組んでいる SDGs についての話をした。そこでは、「AI タクシーの実証実験」や「下水道を利用した環

境整備」などについての紹介もあった。SDGsに興味関心を示していなかった生徒たちでも、身近なところでの取り組みには興味を示していた。



イ 調べ学習

訪問授業の中で気になった場所やイベントについて、調べ学習を行った。資料は各自のタブレットPCや観光物産協会の方からいただいたパンフレットやブックレットを活用していた。「海水浴場百選に選ばれた海水浴場」や「日立中里フルーツ街道で作られている果物」など、各自で課題を設定して活動に取り組んだ。調べてわかったことをワークシートにまとめ、訪問授業での話とあわせて振り返り活動を行うことで、理解を深めることができた。また、「AIタクシー」について調べた生徒は、「自分たちの地域（大沼地区）でも使われているのは知らなかった」「時代に合った取り組みだと思う」といった、日立市が取り組む街づくりに理解を深めた。



3 成果と課題

(1) 成果

実践後の振り返り活動を通して、日立市には、自分たちのまだ知らない魅力がたくさん存在していることに気付き、自分が住んでいる地域の良さを改めて見直そうと、主体的に課題設定に取り組むことができた。また、いろんな人がそれぞれの役割を通して、社会と関わり合っていることを学び、自分も将来はどのような役割を担って社会と関わっていきたいのか、自分の生き方について考えるきっかけにできた。

(2) 課題

新型コロナウイルス感染拡大を懸念した学校の休校により、計画通りに実施できなかった。本来であれば、電話取材などを活用した「職業インタビュー」までを行う予定だったが、十分に活動の時間を確保することができなかった。年間計画をもう一度見直して、来年度の職場体験の実習先や卒業後の進路につながっていく、コロナ禍でも実践可能な指導計画を部員会でこれからも話し合っていく必要がある。

また、SDGsと関連をもった授業づくりを行っていくことの重要性は、今後も高まっていくと思われる。まずは、SDGs自体の理解を深める為に、こういった取り組みなのか調べることから始め、その上で地域との関連を探していき、キャリア教育へとつなげていくとが、今後の課題となっている。

1 はじめに

コロナ禍において、行事や校外学習ができない状況の中、各学年で工夫を凝らして総合的な学習の時間を展開した。

2 実施計画

1 学年	2 学年	3 学年
「地域・人を知る」 ① 校外体験学習 ② 郷土「ひたち」 日立市調べ	「自分の未来を考える」 ③ 職業調べ ④ 上級学校調べ・先輩 に学ぶ会 ⑤ 集団宿泊体験	「自己を見つめる」 ① 修学旅行（古都・京都 から学ぶ） ② 高校体験学習 ③ 進路学習

3 実践

(1) 第1学年

- ① 心豊かな体験学習は日帰りで実施（リニューアルされた日立科学館にて）
- ② 地域の方々との交流会は中止
- ③ 郷土カルタ大会を実施し、郷土に関する関心を高めた。
- ④ 郷土「ひたち」について、郷土カルタの中からテーマを決めて調べ学習を行った。
- ⑤ いばらきっ子郷土検定の日立市問題に挑戦した。



(2) 第2学年

- ① いばらきっ子郷土検定への取り組み
- ② 職場体験学習は中止
- ③ 職業調べをし、書面発表。
- ④ プレゼンテーションソフトを使い発表会をオンラインで実施
- ⑤ GTを招き、講演会を実施（ハローワーク、警察官、消防官、薬剤師、歯科医）
- ⑥ 立志式



(3) 第3学年

- ① 修学旅行は、福島方面 1泊2日
- ② 京都奈良の調べ学習に加え、福島方面の調べ学習も行った。
- ③ 高校調べ
- ④ 高校体験
- ⑤ 高校説明会は実施しなかった。



4 成果と課題

核となる行事や校外学習が実施できない中、工夫を凝らして、かつ時間をかけて、調べ学習や、発表などを行うことができた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、校外活動や体験活動に制限があったが、生徒たちは前向きに学習に取り組んだ。しかし、探究活動はPCやタブレットに頼ってしまう傾向が見られたのが課題として残った。

「職業」って何だろう (2)

年 組 番

㊦

○2019年調査「なりたい職業ランキング」の()にあてはまる職業を予想して、記入してみよう。

ちなみに、男子1位と女子7位(=◇) / 男子9位と女子1位(=☆)は、同じ職業が入ります。

〈中学生・男子〉

- 1位 (◇)
- 2位 プロスポーツプレーヤー
- 3位 ()
- 4位 ITエンジニア・プログラマー
- 5位 社長などの会社経営者・起業家
- 6位 ()
- 〃 公務員
- 〃 ものづくりエンジニア
- 9位 (☆)
- 10位 会社員

※6位は同率で3つの職業。

〈中学生・女子〉

- 1位 (☆)
- 2位 絵を描く職業
- 3位 医師
- 4位 公務員
- 〃 ()
- 6位 ショップ店員
- 7位 (◇)
- 8位 文章を書く職業
- 9位 動物園・水族館の飼育員
- 10位 ()
- 〃 デザイナー
- 〃 教師・教員

※4位は同率で2つ、10位は3つの職業。

※答えは、裏面にあります。

㊦

○「なりたい職業ランキング」と「親が子どもにさせたくない職業」を比較してみよう。そして、なぜ親が「させたくない」と思うのか考えてみよう。

〈親が子どもにさせたくない職業〉

- 1位 YouTuber
- 2位 営業マン
- 3位 ゲームクリエイター
- 4位 スポーツ選手
- 5位 公務員



なぜYouTuberにさせたくないか?

なぜ営業マンにさせたくないか?

なぜゲームクリエイターにさせたくないか?

なぜスポーツ選手にさせたくないか?

なぜ公務員にさせたくないか?

社会の抱える課題の解決に向けて自ら行動しようとする生徒の育成
～SDGs の 17 の目標から自分たちには何ができるだろう～

日立市立久慈中学校

1 はじめに

本校では、教育目標を「意欲的に学び、心豊かに、たくましく生きる生徒の育成」としており、「自ら学び、確かな学力を身に付けた生徒」、「判断力と実践力を兼ね備え、思いやりと優しさのある心豊かな生徒」、「自ら体を鍛え、心身ともに健康でたくましい生徒」を目指す生徒像として、日々の教育活動に取り組んでいる。第1学年では、「世界が抱える課題について SDGs を通して詳しく調べ、解決のための具体的な行動を考える」ことを課題とし、講演会や調べ学習を通して、「持続可能な社会」をつくるために、自分たちに何ができるかを考え、実践しようとする態度の育成を目指した。

2 資料

(1) SDGs についての講演

① 講師 水戸市消費センター消費者支援員

② ねらい

消費者センターの方から、私たちの消費行動と SDGs に関する講演を聴き、私たちのくらしと SDGs がどのように関連しているのか気付かせる機会にする。

③ 写真



(写真1) 講演会の様子1



(写真2) 講演会の様子2

④ 生徒の感想

世界中には食べ物がなくて苦しむ人が約8億人もいるのに、日本では食べられるのに捨ててしまうことが多くあります。“飢餓をゼロに”の目標を達成するためにできることをやりたいです。

(2) SDGs についての調べ学習とまとめ

① ねらい

世界が抱える課題を、SDGs を切り口としてより詳しく調べ、解決のための具体的な行動を考える。

② 内容

ア SDGs の 17 の目標について冊子を読み、自分が興味を持ったテーマについて文献、インターネット、ニュースにて情報を収集する。

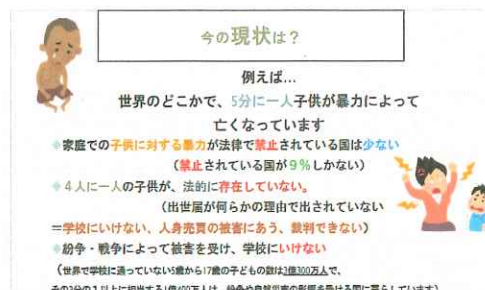
イ パワーポイントを用いて、自分が調べた内容についてまとめ、班内で発表する。

ウ まとめたスライドの中から問題を作成し、「ゴー・ゴールズ！」のマスの問題を自分たちで出し合う。

③ 写真



(写真3) 調べたことをパワーポイントにまとめる様子



(写真4) 生徒が作成したプレゼンの画面



(写真5) 作成された問題



(写真6) 作成した問題を出題する様子

④ 生徒の感想

福祉や医療を受けられない人がたくさんいて、5才未満で亡くなる人がたくさんいることに驚いた。

SDGsの調べ物をして、自分が調べた目標について深く知ることができた。自分にできることについても考えることができ、よい機会になった。

3 課題と成果

今回の実践を通して、いくつかの成果が見られた。1つ目は、講演を聴いたり、SDGsのテーマの中から興味のあるものを選択し調べたりしたことで、生徒一人一人が世界の抱える問題をより身近に感じられたことである。2つ目は、インターネットや文献から収集した情報をパワーポイントにまとめることで、情報の選択や人に伝えるための効果的なまとめ方を考えられたことである。

一方で課題として、聞き手に分かりやすく情報をまとめることはできたものの、当事者意識をもって自分には何ができるか考えられていない生徒が多く見られたことが挙げられる。2学年では、職場体験などを通して自分が社会とどのように関わっていきたいか考える機会が増えていくため、次年度ではそれらと併せてSDGsの目標の達成に向けて具体的行動の計画や実行をさせていきたい。

地域と共に生きる
—地域に貢献できる人材の育成を目指して—

日立市立坂本中学校

1 はじめに

本校では、従来から、総合的な学習の時間においては地域学習に取り組んできた。「地域と共に生きる」を全体テーマに、将来において地域に貢献できる人材育成をねらいとし、学習を進めてきた。そのねらいに迫るために、学年ごとにテーマを設定し、1学年では「地域の過去」を、2学年では「地域の現在」を、3学年では「地域の未来」を活動内容の中心にとらえ、課題を追究してきた。

2 資料（実践事例、写真等）

(1) 単元名 ワールドキャラバン「中国について知ろう」（第1学年）

(2) 単元の目標

中国と自国の文化の相違点や共通点を調べる学習を通して、中国と自国の文化の魅力や価値、そこにある問題点について理解するとともに、自国の地域のよさや伝統を大切にしながら、自分たちの今後の生活に生かすことができるようにする。

(3) 本時の学習活動

① 目標 各グループの発表を聞き、中国の文化について理解を深めることができる。

② 展開

学習内容・活動	・支援の手だて ◎評価
1 本時の学習を確認する。 中国について調べたことを発表しよう。	・学習活動を確認することで生徒の学習意欲を喚起する。 ・発表を聞く時には自分と比較しながら真剣に聞くように助言する。
2 発表会を行う。 A 中国の食事について B 中国の服装について C 人物や有名な物について	・各グループの発表を聞くことで、中国の文化や習慣に興味関心を高めていく。 ・聞き手は発表を聞いて、わかったことや疑問点を感想用紙に記入するよう指示する。
3 自己評価を行う。 ・発表の仕方や内容について、また他のグループの発表を聞いて分かったことや疑問点について自己評価カードにまとめる。	・自己評価カードに記入させることで自分の発表について振り返らせる。 ◎調べたことを聞き手に分かりやすく発表することができたか。（発表・自己評価カード） ◎各分野の発表を聞き、中国についての文化・習慣の知識を深めることができたか。 (自己評価カード)

- | | |
|---|--|
| <p>4 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の発表会についての感想を述べ、次時は中国の方の講話を聞く学習をすることを伝える。 |
|---|--|

(4) 掲示物・当日のワールドキャラバンの様子



(5) 生徒の振り返り

- ① 食文化の話では、辛い物を食べる理由や朝ごはんにはラーメンを食べることが、とても印象に残りました。服装では、夏服と冬服の違いや着方を知ることができました。中国と日本の違いがたくさん分かって良かったです。
- ② 中国のあいさつで「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」はそれぞれ違い、目上の人に対するあいさつの仕方もあると知りました。また、数の数え方では、1～5までの手の数え方は日本と同じでしたが、6～10の数え方は、日本と異なっていました。日本は両手を使うけれど片手でできる中国は便利だと思いました。

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 調べ学習の時間では、「観光」「学校生活」「食べ物」「スポーツ」「人物」などの分野を提示し、調べたい分野をグループごとに話し合って決定した。調べる分野を細かく提示したことにより、何を調べたいか具体的に考えやすくなることができた。
- ② グループごとに ICT や本を活用しながら調べ、模造紙にまとめていく活動を実施した。グループ活動を取り入れたことで、個人で学習するよりも、学習活動が発展し、課題への意欲を高めることができ、より理解を深めることができた。さらに、模造紙のレイアウト作成においても、具体的な例をいくつか示すことで、自分たちで試行錯誤しながら見やすく、分かりやすく工夫して行うことができた。
- ③ ワールドキャラバンでは、中国の方の話を聞き、自分たちの地域の生活や文化などについて比較することができ、自国の良さや課題に気づくことができた。
- ④ 調べ学習や発表会を通して、疑問に思った点を教え合うなどして、より他国や自国の魅力や価値に迫ることができた。

(2) 今後の課題について

課題設定、課題追究の学習活動は、十分な基礎・基本が身につけている生徒にとっては自分の力を伸ばす絶好の学習となると考えられる。その一方で、課題追究の方法が分からず、資料の丸写しで終わってしまうような生徒も少なくない。まず、基礎・基本を身に付けたり、調べ学習の方法を学んだりする時間を確保したい。